

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾  
麻生公務員専門学校福岡校

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について .....	- 4 -
2. 基準項目について .....	- 5 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	磯野 裕一	自衛隊福岡地方協力本部 福岡地区隊 隊本部班長
業界関係者	中島 賢一	公益財団法人 福岡アジア都市研究所 フェロー
業界関係者	小山 浩俊	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター 所長
高等学校	大坪 洋二	久留米学園高等学校 教頭
地域住民	小林 芳光	博多駅南2丁目4区 民生委員
保護者	小川 小百合	公務員総合科1年生 保護者
卒業生	末武 勝信	平成18年度 公務員総合科 卒業

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年9月15日(水) 14:30 ~ 16:30

場 所：麻生塾福岡キャンパス 10号館2階大会議室

#### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

#### 5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

## II. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【取り組み内容】

1. 受験対策ノウハウの確立、データ化とICT活用による教育の質の向上、個々教員の教育力の向上
  - ・ 授業研究会(科目別)および人物試験研究会による分析・検討・研究
  - ・ 各種情報の確実な収集とデジタル化、授業のコンテンツ化(まずはPPT化)
  - ・ 対応可能科目・スキルの拡充と質向上、教職員の自己研鑽・自己啓発・自己投資促進
2. 学生の進路実現・進路確保促進
  - ・ 公務員・準公務員受験先開拓
  - ・ 民間就職先開拓、及び民間就職指導方針再検討
3. 退学者低減・卒業率向上

#### 【評価】

新型コロナウイルス感染症禍において、学校を取り巻く環境が激変している状況下で、学びの場の確保に重点を置いた運営を実施している。運営としては、授業と受験指導を中心とした内容にならざるをえず、重点項目の計画実施がままならない状況であったと判断できる。その中で、リモート授業実施のためのコンテンツ作成、情報共有のためのネット活用とデジタル化、新規のコミュニケーションツールも用いての学生対応等、新たな諸活動を創意工夫しながら実施し、学校運営を継続実施したことは、大きく評価できる。

進路実現のため、民間就職希望者に対しての取り組みについて、法人関連部署との連携を深め、情報収集をはじめ、希望者に対しての適切な進路支援を実施できたことも評価できる。

また、退学者減少に向け、学生状況の情報共有を、安全性・即時性・共有性を考えた活用方法を整え、学校教職員全員が認識し取り組むことで、退学者減少となったことも評価できる。

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適 正

#### 【取り組み内容・評価結果】

- ・教育理念、目的、育成人材像について明確に定められており、周知に関しても学生便覧等を用いて学生・教職員になされ、社会に対しては麻生塾ホームページを用い、情報公開の中にわかりやすく表示公開されており、問題ないと評価できる。

#### 【委員からの意見】

- ・自分の将来やりたいことをビジョンとして持っている学生さんが、「公であったら・民であったら何ができるか考え行動することが出来る。」の視点を持てる人材を育成するということが育成人材像となるのではないかと思う。
- ・自分の仕事さえできれば良いという考えの人が多く、指示待ちでしか動かない人が増えてきていることから、自ら考え行動できる人材が人材像として必要であると考える。

#### 【改善の方策】

- ・特になし。

### 基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適 正

#### 【取り組み内容・評価結果】

- ・新型コロナウイルス感染症禍において、学校内の組織を適切に編成し、学科・学年に分け状況に応じて協力体制を作りながら学校運営を行っている。意思決定についても、学校を取り巻く環境変化に対応するために、状況に応じて確実に会議等を開催決定し、必要事項は法人本部に応援を要請するなど機動的に行われている。登校制限により求められることとなった、授業をはじめとするオンラインでの学校運営についても、与えられた設備・機器と通信環境下で、より有効活用できる方法を探しながら努力している。様々な制約のある中その時点で最良の方法を模索しながら、運営を実施されていると評価できる。

#### 【委員からの意見】

- ・新型コロナ禍で学校運営に非常に大きな負担が増している中、学校運営を進めておられると思う。

#### 【改善の方策】

- ・学校として、運営方針の策定やこれに沿った事業計画の策定がされ共有もなされている。しかしながら、これらはただ策定され共有されれば足りるものではなく、学校教職員全員がこれらに基づく共通のビジョンを持っていること、またビジョンが実現されることが求められる。従って、策定した運営方針や事業計画について、(1)単なる共有にとどまらない十分な説明と認識のすり合わせがなされること (2)随時、運営方針や事業計画の再確認と、必要に応じてこれに基づく軌道修正がなされること (3)運営方針や事業計画に沿った運営がなされたかの振り返りを確実に行うことが必要である。これら(1)(2)(3)を実行していく。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・カリキュラム(教育課程)は、理念に基づいて、公務員合格、公務員を目指すにおいて必要な心構え、及び人間的成長を目的とした内容が、年次ごとに検討編成されている。また、監督官庁である福岡県へも確実に提出され設置基準を遵守している。
- ・各科目は、科目ごとに内容等が説明されたシラバス(授業運営計画書)が作成され、内容が全学生に伝達されると共にホームページに掲載され、常時閲覧が可能な状態として社会公表されている。
- ・教員の能力向上については、教員の状況把握を行うために学生による年 2 回のアンケートが実施されている。アンケートの具体的項目結果は各教員に伝達され、個人別に授業とクラス運営を良化するためのポイントが把握できるものとなっている。なお、個人に求められる能力向上ポイントに合わせて、勉強会・研修等計画されていたが、新型コロナウイルス感染症禍で、アドバイス等限られたものとなっている。教職員の能力開発についても、各種の勉強会・内部外部研修会等の計画がなされていたが、新型コロナウイルス感染症禍で大きな影響を受け、実施が叶わない状態であったと判断できる。また、学校として、教員に対して「社会教育士」について学ぶ機会を検討するなど、視野を広げるための情報収集を実施していることについては評価したい。
- ・成績評価と進級・卒業については、明確に規定化されており、この規定に基づき厳格に判断されている、また、この規定は「学生便覧」に掲載され、学生への明示と周知がなされている。
- ・各種の制限がなされる中で、学生の進路実現目標に向かって、教育活動・感染予防活動を様々な計画・検討を行いながら実施され、学びの継続を実施されたことが大きく評価できる。

【委員からの意見】

- ・教職員の能力開発を行う際に、自分を知ること重要ではないかを感じる。自分の特性・気質・強みと弱みがどのような内容であるのかを客観的に査定するものが存在するので、「ストレングスファインダー」は、「自己を知る」ために実施することもよいと思う。また、学生さんへの展開も問題ないと思えるので、この点も検討されて見るとよいのではないかと思う。
- ・人間的成長を促すに当り、「人権意識：弱い人に目を向ける。」考えを持つことが重要ではないかと感じる。何らかの検定を導入し学習することで、その意識が向上するのではないかと考える。
- ・科目として、又は学生向け教育活動として、クレーム対応研修を入れても良いのではないかと思う。
- ・社会教育士の資格は、今後学校関係の公務員を目指すためには強みになると思うので、学生が学ぶことを考えてよいと思う。

【改善の方策】

- ・本校においては、公務員合格を目指すという特性上、筆記試験で得点取得ができるための授業、人物試験に対応できるようになるための指導力が何よりも求められる。本校として引き続き教育活動の質向上を目指すために、各科目について、幅広く、深く、正確な知識の習得、最新出題傾向の把握、人物試験指導ノウハウの獲得、職種理解深化や受験先情報の収集把握等のインプット面だけでなく、それらを効率的・効果的に伝えていくためのトークスキルの獲得など、アウトプット面の向上を行う。また、学生の人間的成長を促すため、公務員分野にとどまらないより幅広い教育サービスの提供(自己発見・自己分析等)を可能にするため、学校及び教員としての知見獲得を目指す。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・新型コロナウイルス感染症禍において、危惧していた公務員試験1次合格率と最終合格に関しては、順調に結果を出すことができていると、結果的に過去数年の中でもよい結果となっていると理解できる。
- ・民間就職に関しても、例年に比べて決定者が多い状態であり、本来の目的と異なる進路決定となっているが、進路変更に対応が来ていると判断できる。
- ・退学率に関しても、前年度から減少となり、過年度と比べて率を下回る結果となっている。
- ・学修成果を把握するため、公務員受験活動状況について、システム上に管理一覧を整備し、個人別に時系列で状況把握を実施している。また、民間就職変更者に対しても、民間就職版の一覧を作成し同様に状況把握を実施しており、全学生に対する状況把握がなされていると判断できる。
- ・学校としての一番の目的である公務員合格について、学習面・個人指導面について新型コロナウイルス感染症禍で制約の多い中、結果が出ていることは評価できる。また、進路変更についても一人ひとりの学生に向き合い、最終進路を決定すると取り組みを進化させ対応したことは高く評価できる。

【委員からの意見】

- ・学習成果としての、「数・率」と別に、学生自身に、「自分はこんなことができる。」という「気付きと自信」をつけさせるようなサポートを実施することが、結果的に「数・率」の向上と「学生満足」につながるのではないと思う。これを広げて、学生の「良いところ」を見つける活動を考案し実施することも良いのではないかと考える。学生の「良いところ」と「すばらしいところ」から、特性に合った公務員の職種・職域をマッチングさせ、目標設定につなげることで、学修効果が上がるのではないかと考える。
- ・教育的効果のために時間がかかるが、若い学生に対しては、教職員は「兎に角、聴いてきて吐き出させる。」聴き役に徹して、自分でどうするか考えさせる手法も考えられる。教職員によるアドバイザー的助言が過ぎると、学生の自己成長を抑制することにもつながるので注意が必要と感じる。

【改善の方策】

- ・「社会への出口となる学校」たる専門学校としての使命に基づき、前述した教育の質向上により、公務員合格率の維持向上を目指すとともに、進路変更に関する学生・保護者のニーズを踏まえ、民間就職指導能力の向上、民間就職実績の向上も目指す。併せて、学生の自発的成長を促すべく、学生の自己肯定感を引き上げ、その良さを引き出すためのアプローチ（カウンセリング等）も積極的に採り入れる。もっとも、効果的なカウンセリングのためには教員のスキル、またそれを身に付ける時間が必要であることから、そのための工夫も行いつつ、既存ツールの活用も再検討する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・新型コロナウイルス感染症禍で学生支援として重要度が増してきているのが、キャンパスライフサポートセンター(=学生相談室)機能であると認識し、告知について最新の注意を行っている。具体的には、相談そのものを行うことに対してのハードルを下げるために、センターが設置されていることの告知と利用申し込みを、人目を気にすることなく確認ができるようにとの配慮から、トイレ内掲示を実施している。また、相談内容の制限をせず、「話をきいてもらうだけでも可」として運営していることが評価できる。
- ・学生支援を補完する意味として「保護者通信」(4,5年継続実施中)を発行し、学校活動状況を保護者に向けに情報提供している。新型コロナウイルス感染症禍において実施した活動内容や、計画されている活動内容を発信することで、保護者に安心感を持って学生達を支援いただくための情報提供の場として実施されていることは良い活動と判断できる。
- ・新型コロナウイルス感染症禍において、外部から学校へ提供される各種の情報等を、遺漏なく適切に伝達周知し、学生の学校生活が有益となるよう努力する学校全体の考え方は、学生支援の観点で高く評価できる。

【委員からの意見】

- ・広義の学生支援としての公務員情報提供は、随時学校より子供へ提供されているので、子供も率先して各種の活動を実施している状況であるが、公務員試験情報について各試験別の申込スケジュール・試験回数(1次,2次等)・合格発表等、一覧化されたものがあると非常にありがたいと感じる。それを活用することで、保護者から子供へ支援ができるのではないかと思う。
- ・様々な経験を経て公務員となった先輩達の「経験者のストーリーを学生さん達に提供してみると新たな支援となるのではないかと考える。麻生の先輩たちのストーリーを見せると幅が広がる可能性も出てくると感じる。
- ・心と体のケアを取り入れる工夫があると良いと思う。リフレッシュするための活動を期待します。
- ・コロナ禍で難しい面があると思うが、職場訪問や卒業生の講演等を充実させる必要があると思う。

【改善の方策】

- ・「学生支援」のための各種制度(各種奨学金等経済的支援、相談対応等精神的支援)自体そのものは、昨年度より続くコロナ禍の下で漸次拡充されてきている。その中で学校に求められる、(1)教職員が各種制度について認識・理解を深めること (2)支援を求めている学生に対して、告知・案内を適時・適切に行い対応すること (3)学校内での情報共有と連絡相談の仕組み作り、また関連部門との連絡相談の仕組み作りを今以上に整えていくこと 以上3点を行っていく。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・オンライン化において教員の授業を行う環境を整備するため、タブレット・ペンタブレット等の導入を進め質問対応等の環境良化を進めている。また、学生側の環境において、パソコン・タブレット保持率が低い現状があるため、タブレットの貸出を行っている動きについて評価できる。また、Wi-Fiについても貸出を行っていることも評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症禍で様々な感染予防措置が求められる状況であり、教育環境の整備は改善を続ける必要があるが、検温機器設置・各所へ消毒液設置・施設の適切消毒実施・管内への感染予防啓蒙表示等、適切に行われており評価できる。

【委員からの意見】

- ・ 学生1人に1台のタブレット貸与が実施されると、教育環境も若干ではあるが改善するのではないかと思います。

【改善の方策】

- ・「教育環境整備」のための制度（上記、タブレット・Wi-Fi ルーター貸出しなど教育支援）自体は、昨年より続くコロナ禍の下で漸次整備されてきていることから、今後もその整備を進めると共に、対学生向けの制度について、案内・告知の徹底を図り環境良化を続ける。また、既存の教育施設・設備（トレーニングジム、図書館など）については、コロナ禍を受けて稼働ができない期間があるのはいたしかたないが、感染防止を徹底することを前提として施設利用の可能性を探り、運用再開の道筋を付ける努力・工夫を模索していく。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・学校としてのアドミッションポリシーを明確に公表し活動を実施している。情報の提供もパンフレット等に掲載し適切に表示されている。

【委員からの意見】

- ・ホームページの他、インスタ・ツイッター、ゲーム系SNSを作られると良いのではないかと思います。関東の大学では、フォーナイトでオープンキャンパスを行われている学校もあるため、検討してみてもいかがかと考えます。

【改善の方策】

- ・「適正」な募集、すなわち、学校として求める人材像に合致する者を募るためには、アドミッションポリシーの更なる周知が必要である。オープンキャンパスなど、広報・募集活動において直接かつ確実に伝えることを行う。また、学生募集としての重要項目である入学試験制度では、新たに中上級の区分に於いて web 出願方式を導入し、エントリーの間口を広げることを行う。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・ 学校運営が滞りなくなされるよう基盤が安定し、適切な管理執行が行われている。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 特になし

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・ 法律、省令、規則、基準等に則って適正に学校運営がなされている。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 特になし

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・ 自己点検・評価、学校関係者評価委員会開催、教育課程編成委員会開催等確実に実施されている。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 特になし

基準 11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・ 社会貢献・地域貢献については、新型コロナウイルス感染症禍、計画・延期・中止の連続であったと考えられ、活動制限が大きく出ている状況と判断できる。特に、ボランティア活動は長年実施されサークル活動まで広がりを見せていたが、中断となっていることについてはやむを得ない状況と判断できることから、状況が落ち着いた後に再開を進めて頂きたいと考える。
- ・ 学校が持つ教育的な知見による社会貢献については、公務員に関連する各種情報は、現役高校生以外にも希望が多く提供も可能な内容であるとのことであったため、オンラインでの活動を活性化させ実施されたことを評価する。結果として対象とエリアが広がり(教員・保護者・中学生対象、沖縄県離島・九州外等)、社会貢献対象が拡大したことも評価できる。

【委員からの意見】

- ・ 社会貢献の内容としては、公務員の枠にとらわれず広げる考えを持つのもあるのではないかと思う、オンラインで出来ることは沢山あるため、例えばeスポーツで世代間交流を行って見ることも考えて良いのではないかと思う。eスポーツ世代間交流は実際に行っている地域もあり、若者が主役となっている。

【改善の方策】

- ・ オンラインによる活動を推し進めると共に、対面での活動の可能性も模索していかなければならない。社会貢献活動を実地に行くことは、20歳前後の多感な学生にとって、自らの人格的な成長の上で大きな刺激となると考える。学校として、自治体や社会福祉協議会との連携により、対面で行うボランティアやアルバイトの引受けを行い、学生への案内を行っていく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適 正

【取り組み内容・評価結果】

- ・ 法人と学校から情報提供を確実に行う仕組みが整っている。

【委員からの意見】

- ・ オンライン留学という視点も検討することが必要ではないかと考えます。

【改善の方策】

- ・ 特になし。

全体を通して

- ・ 対人関係の減少から心の病につながる傾向があるため、学校で友達と会う・話す機会をできる限り増やしていただきたいと感じます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症禍の中、学校運営は大変な状況であると思いますが、今後とも子供たちへのご指導をよろしくお願ひしたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症禍で、学校運営において様々な取り組みをされていて、大変なことが多いであろうと感じます。今回、委員会で討議してきた各基準内容は、学校現場で必要なことが実施されていると判断できます。

今、学校現場は、新型コロナウイルス感染症禍で従来と大きく変わってきています。ICT教育の導入により、教員は研修を行って授業にあたっていますが、ともすれば、生徒・学生の方が先をいつている場合もありますので、「生徒・学生に聞いてみる」の視点もあるべきと感じています。学校には、多くの知識と多様性を持った生徒・学生が沢山いますので、そのことを活かしながら、進路実現につなげる必要があると考えます。

全体を通して

新型コロナウイルス感染症禍では、学校の環境を変化させることも、生徒・学生の学びを止めないため、さらに先に進めるためには必要であると感じます。つまり、学校は準備し続けなければならない時代となってきたのだと痛感しています。

今まで行えていたことが行えない、行ってはいけない、やらなくて良いとの環境に変化していますが、その代りに何ができるのか、何をやるべきなのかを考え、学校として一つひとつ前へ進め、生徒・学生が、「学校が楽しいと感じる・思える」ことを体感してもらえようという努力がより大切になると考えます。

そのために学校は、感染予防と学校活動のバランスを保ちながら、生徒・学生の満足が高まる様、社会の変化を見据えて努力し続けることが必要であると感じています。今後とも生徒・学生の進路実現に向けて努力され続けることをお願いしたいと感じます。

以上